

全国都市緑化仙台フェア基本計画 第1回検討会 議事概要

日 時：令和3年4月23日（金）14：00～16：00

会 場：仙台市役所本庁舎第4委員会室 ・リモート併用

出席委員：涌井座長、遠藤副座長、内海委員、鹿又委員、古積委員、今野（彩）委員、
今野（薫）委員、佐藤（修）委員、佐藤（重）委員、佐藤（美）委員、庄子委員、
高橋委員、深松委員、村上委員、渡部委員（計15名）

オブザーバー：国土交通省東北地方整備局建政部 峰寄都市調整官

欠席委員：工藤委員、舩谷委員（計2名）

事務局：建設局長、建設局理事（全国都市緑化フェア推進担当）

百年の杜推進部長、同部全国都市緑化フェア推進室長、同部百年の杜推進課長、
同部公園課長、同部公園整備担当課長、
同部河川課長（計8名）

1：開会

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

－開会－

－オンライン会議に関する注意事項－

2：挨拶、事務局紹介

○事務局（建設局長）

－挨拶－

○公益財団法人都市緑化機構 柳野専務理事

－挨拶－

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

－事務局紹介－

3：委員紹介

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

－委嘱状の交付についての説明－

－新任委員挨拶－

○鹿又委員

・報道機関の一員として、都市緑化フェアの成功を後押ししたいと思う。

○今野（薫）委員

- ・街の中でこのようなイベントが出来るということ、特に今の時期、大変喜ばしく思う。皆様と頑張ってまいりたい。

○高橋委員

- ・観光客の視点や観光案内所を運営している事業者としての視点からご意見を申し上げたいと思う。

○村上委員

- ・現在、新型コロナウイルスの感染拡大により非常に厳しい状況にあるが、令和5年に開かれる都市緑化仙台フェアは、コロナの終息を見据えたイベントとしては非常に期待できると感じている。我々旅行業界の立場としていろいろお話をさせていただきたい。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- －他委員紹介及び欠席委員確認－
- －オブザーバー紹介－

○オブザーバー 国土交通省東北地方整備局 峰寄都市調整官

- ・街づくり、緑化、公園づくりを所管する立場として皆様にバックアップさせていただければと思う。

4：座長選出及び副座長指名

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- －座長の推薦について委員に意見聴取－

○古積委員

- ・基本構想懇談会座長を務められ、今回の検討会委員でも在る、東京都市大学の涌井先生にお願いしてはいかがか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- －涌井委員の座長任命について委員へ確認（異議なし）－
- －副座長の指名－

○涌井座長

- ・副座長は、基本構想懇談会でも私を助けていただいた、仙台市公園緑地協会の遠藤委員にお願いさせていただきたいがいかがか。
(委員より異議なし)

－座長・副座長挨拶－

○涌井座長

- ・昨年5月から12月までの間、4回の懇談会を重ねながら基本構想を取りまとめたところである。この基本構想を基として、さらに方向性を具体化するのがこの委員会の趣旨だと思う。
- ・先ほどもご挨拶にあったように、仙台市での都市緑化フェア開催は2回目である。しかし、2回目といっても、前回とは全く違った方向性になっていく気がしている。
- ・フェア開催の4年後2027年には国際園芸博覧会が開催される運びになっている。
- ・ポストコロナの時代、これまでと同じような条件が続くとは限らない。自然といかに関わり合っていくのか、あるいは、どのようにその自然を大切にするのか、ということに向き合わなければならぬ時代が来るかと思う。そうした中で、都市緑化仙台フェアが、一つの時代の先駆けになるということになれば嬉しい。

○遠藤副座長

- ・基本構想懇談会に引き続き、涌井座長のもとで副座長を務めてまいりますのでよろしくお願いしたい。本日から2年後のちょうど数日後に都市緑化フェアが開催されるということである。今、仙台は新緑に包まれて最高の季節である。今年の桜は例年になく早い開花になり、榴岡公園の八重桜は満開を迎えている。2年後もこの時期に華を添えてくれると思っている。たくさんの方々に長く印象に残るような都市緑化フェアとなるよう皆さんと一緒に進めていきたい。

5：議事

○涌井座長

－事務局へ定足数確認依頼－

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

－定足数を満たしている旨報告－

○涌井座長

－会議を公開とすることの確認－

（委員異議なし）

- ・議事は公開で進めさせていただく。
- ・議事概要の署名については、佐藤（修）委員をお願いしたい。
（佐藤（修）委員了承）

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

―資料3「全国都市緑化フェアの概要」説明―

―資料4「全国都市緑化仙台フェア 開催までのスケジュール」説明―

○涌井座長

・全国都市緑化祭について詳しく説明いただきたい。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

―資料3「全国都市緑化フェアの概要」に基づき全国都市緑化祭について説明―

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

―資料5「全国都市緑化仙台フェア基本計画（案）」及び

別紙1「全国都市緑化仙台フェアの愛称（案）について」について説明―

○涌井座長

・事務局から説明があった基本計画案は、基本構想懇談会における議論を踏まえて作成されたものであり、今後は、この案を叩き台として、留意すべき視点や参加の形態、集客のあり方などについて検討することが重要だと理解したが、認識に相違はないか？

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

・相違ない。

○渡部委員

・現在、示されている3つの愛称案は、市民から寄せられたものなのか。それとも、事務局内にて考案したものなのか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

・別紙1に記載した「1. 愛称の検討に係る視点」に基づき、事務局が、基本構想の理念やテーマを基に考案したものである。

○渡部委員

・愛称案について、仙台フェアのテーマは「杜の都から始まる仙台の未来、みどりを舞台に人が輝く」であり、「杜の都」は最もイメージを伝えやすいフレーズだと思われるので、愛称に取り込むか取り込まないかは別として、しっくりきている。
・気になる点としては、「杜」という漢字が読めない人もいるのではないかということ。そのあたりをフォローできればよいのではないか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・ご意見を伺い、市外の方、県外の方には、そうしたこともあり得ると感じた。今後、ロゴマークを制作する過程において検討していきたい。

○庄子委員

- ・追廻地区の会場計画に期待している。現段階において、フェア開催後にも残すものが決定していれば教えていただきたい。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・別紙2記載の「ウェルカムゾーン」、「もりの庭園ゾーン」、「グリーンスクエアゾーン」については、フェア開催後も、ほぼそのままのかたちで残るものと考えている。
- ・広瀬川地区会場については、整備内容を河川管理者と調整する必要があるが、恒久的な整備を予定しており、フェア開催後においても、広瀬川に親しめる空間は残っていくものと考えている。

○庄子委員

- ・フェア開催後のレガシーとして残すことが決定しているものがあるのであれば、それを前提として今後の検討を進めるべきだと思う。

○涌井座長

- ・追廻地区について、仙台城の大手門を復元する事業があると聞いたが、これはどのようなものか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・大手門については、仙台城利活用計画の改定において、復元が示されている。ただし、復元に至るまでは様々な調査が必要となるため、工事が完成するのは緑化フェアのかなり後になる予定である。

○深松委員

- ・イメージパースを見た限り、「もりの庭園ゾーン」に整備されるのは日本庭園ではなさそうに見えるが、どのように整備する想定なのか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・「もりの庭園ゾーン」は、全体的には青葉山の自然を模した庭園として整備する予定であるが、その一画に日本庭園を設けたいと考えている。

○深松委員

- ・将来、仙台城大手門を復元するのであれば、ぜひ日本庭園を造っていただきたい。

○鹿又委員

- ・愛称について、案①に“Feel Green”と英語の表記を付けた理由は何か。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・今年度より、仙台市のまちづくりの指針である新たな基本計画がスタートしているが、その理念として“The Greenest City”を掲げており、それを踏まえてGreenという言葉を入れていく。

○鹿又委員

- ・「未来の杜せんだい2023」でも十分のような気がするが、場合によっては、英語の部分を省いた案を追加しても良いと思われる。

○今野（彩）委員

- ・仙台市の基本計画が今年度から走り出したということで“The Greenest City”をもう少し意識した愛称案が示されると思っていたので、ダイレクトでないにせよ、市民が“The Greenest City”を意識し、共感できるような愛称になると素敵だと思う。“Feel Green”について、もう少しダイレクトに入れていくという検討があったのかお聞きしたい。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・仙台市としては、基本計画の“The Greenest City”を市民の皆様にも認知していただきたいところである。仙台市総合計画審議会における議論の中でも、「目指す」という意味で“Toward to The Greenest City”や、“For The Greenest City”という案もあったが、英語としてはやや難しいと考え、中学校1年生程度で使われる“Feel”という単語を選択し、少しわかりやすい愛称にしたものである。

○涌井座長

- ・愛称について、旅行業や国際的なインバウンドの観点からみて、どのような感じが仙台以外の方々の興味を喚起しやすいのかご意見を伺いたい。

○村上委員

- ・愛称については、イメージ的に案①がわかりやすいと思う。“The Greenest City”という言葉も見聞きはしているが、“Feel Green”という言葉のほうが、印象としては入ってきてやすいと思う。

- ・愛称からは外れるが、旅行業の観点から申し上げると、フェアが開催される令和5年はコロナが終息し、訪日客が戻る時期だと思われる。具体的に言うと、駐車場の確保や、宮城県が育成しているオリンピックのボランティアのような方々が活躍できる場の提供などについて検討いただきたい。
- ・また、フェアの開催期間は小学校・中学校の遠足や修学旅行の時期にあたるため、そういった学生の方もゆっくり滞在できるようなコンセプトも加えていただき、多くの方に、コロナ終息後の緑花を体験いただけるようなフェアになることを期待している。

○高橋委員

- ・公園センターでの観光情報発信や、観光客にご案内をする際における多言語化について、どの程度考えているか。
- ・東北地方の各小学校、中学校が教育旅行で仙台にいらっしゃった時に、このエリアについての歴史や自然について学んでいただく機会は、とても良いと思われるが、バスの駐車場が少ないと思う。
- ・震災遺構荒浜小学校については、単に震災遺構として案内するということなのか。それとも、例えば震災の時に荒浜小学校の屋上に避難をした人たちに植樹していただくようなストーリー性を持たせた特別企画展示の実施を検討しているのか、考えを伺いたい。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・インバウンド対応については、コロナ終息後において非常に重要になるものと考えており、パンフレットについては、なるべく英、中、韓の3言語を中心として多言語化を図っていきたいと考えている。また、メイン会場近くに仙台国際センターもあり、コンベンションでいらっしゃった方のご案内ということも考えいかなければいけない。
- ・駐車場について、メイン会場には作りたいという考えはあるが、最多客日を考えると3千台規模の駐車場を整備する必要があり、難しいと思っている。そのため、県外からくるお客様へのパークアンドライドのご案内や、公共交通機関への誘導に関する広報は十分にしていなければと考えている。
- ・震災遺構について、市の担当部署である防災環境都市推進室と連携し、荒浜小学校の見学だけではなく、周辺を周遊できる防災観光ツアーの実施も検討しており、その中で植樹や食といった要素も取り入れたいと考えている。

○佐藤（美）委員

- ・仙台駅から青葉通にかけて修景するのであれば、地下鉄国際センター駅からメイン会場のエントランスまでの動線を修景すれば、地下鉄で来場される皆さんの気分が華やぐと思うが、何かそういったことは考えているか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・国際センター駅から追廻地区までやや距離があり、わかりやすいルートというもの、あまり整備されていないと考えており、誘導と修景とあわせ、プランターを動線上に置いていくといったことが必要だと考えている。

○佐藤（美）委員

- ・東部エリアの会場について、海岸公園では植樹のプログラムや復興パネル展示、高砂中央公園では、新しい公園を体験できるイベントを実施するとなっているが、高砂中央公園を新しい公園の体験の場とするのであれば、海岸公園については、昔ながらのみどりと親しむ遊びを楽しめるプログラムに入れるのがいいのではと思う。ちょうど、冒険広場で緑を使った昔遊びの冊子をまとめられたとも伺っているので、検討していただきたい。
- ・メイン会場のグリーンアクティビティゾーンがとても楽しそうで期待しているが、プログラムやワークショップだけではなく、自由に遊べる、何時間いてもいいようなスペースを確保していただきたい。
- ・グリーンアクティビティゾーンで遊んだあとの休憩やランチで、小さい子どもを連れて橋の向こうの飲食ゾーンまで行くのは大変だと思う。近くにピクニックエリアを設けて、休憩やランチができる場所があると良い。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・グリーンアクティビティゾーンで実施するのはすべてプログラムとは考えていない。子どもが自由に遊べるような遊具や、ハンモックなども用意したい。
- ・休憩場所については、地下鉄東西線の高架がグリーンアクティビティゾーン内にあり、日陰をとれる場所となっているため、そういったところを活用して、家族連れの利用者が休めるようなスペースを確保してまいりたい。

○今野（薫）委員

- ・レガシーについて、都市緑化フェアではハード面だけではなく、「緑を大切にしていきましょう」「街のなかにたくさん緑を残していきましょう」といったソフト面の意味合いも大きいと思っている。仙台商工会議所としては、フェアへの来場者に街中の回遊を促すような仕掛けづくりは必須だと考えているが、それ以上に、緑を伝え、残していくような、フェアの開催効果を一過性で終わらせないための取り組みが大事である。
- ・フェアの愛称について、内容的に「フェスティバル」や「フェス」はやや違うように感じる。フェアの3つの基本理念を考慮すると案①の「未来の杜せんだい」が非常に良いのではと思う。
- ・会場も分散をされており、仙台城、広瀬川、震災遺構、この3つを繋げているところは

大変すばらしい企画だと思う。

○涌井座長

- ・まさにご指摘のとおりだと思う。ご参考までに事例を紹介するが、横浜で開催された都市緑化フェアでは、「里山地区」と「みなとまち地区」を会場としていたが、「みなとまち地区」では、まちなかを花と緑で埋め尽くすという取り組みが大成功し、フェア終了後も「ガーデンネックレス構想」としてまちなかを彩る催しを継続している。コロナ禍であり、よいか悪いかは別問題として大変な人出があり、周辺の商店の収入増にも寄与しているそうである。

○遠藤副座長

- ・レガシーについては基本構想懇談会の時から考えていた。仙台市公園緑地協会では、道路にプランター等を設置する商店街を対象とした「花いっぱいまちづくり助成事業」を実施し、仙台駅前にフラワーバスケットなどを設置しているが、商店街組合で行っていることもあり、マンパワーや予算面でも継続が難しい状況である。こういった取り組みを活用し、地域団体等をバックアップするかたちで盛り上げるのはどうか。こうした事業は長い期間を継続していくことが難しいと思われるので、2～3年と限定し取り組むのもよいのではないか。

○内海委員

- ・交通輸送について、東部エリアでは、荒井駅から農業園芸センターのバスは、土日でも1時間に1本ほどの運行状況だったと記憶している。是非、フェア期間中は、シャトルバスの体制を十分整え、輸送計画を立てていただきたい。東部エリアにおける防災観光ツアーの企画も検討しているとのことなので、そのあたりも含めて十分に考えていただきたい。バスについては環境への負荷の少ないバスの利用を検討いただきたい。
- ・飲食ブースは、フェアを盛り上げるには必要不可欠であるため、各会場において地産地消に配慮したメニューを提供する飲食ブースの充実を検討していただきたい。
- ・物販についても、多くの人が木や花を植えられるような、充実した体制作りをお願いしたい。

○鹿又委員

- ・仙台市博物館について、先日の仙台市の発表によると、改修工事を今年の10月から2年半かけて行うとのこと。終了するのは令和6年の3月で、令和5年の都市緑化フェアの期間は、博物館は休館されることになる。追廻地区の、まさに隣に仙台市博物館があり、ここには国宝の支倉常長像や、伊達政宗公の武具や陣羽織といった重要文化財が展示されていて、仙台市を観光で訪れた人は必ず行く場所である。都市緑化フェアの開催期間と博物館の改修工事期間について、市内部で調整は行われたのか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・市内部でも調整はあったが、施設の老朽化が激しく、これ以上改修を遅らせることが難しいという判断となったと聞いている。

○鹿又委員

- ・都市緑化フェアは、ポストコロナにおける仙台市にとって極めて重要なイベントになる。仙台市内の観光資源を総動員して観光客をお迎えするというのが重要だと思うので、非常に残念である。これは教育局での話になると思うが、世界的にも貴重な一部の国宝級の展示品だけでも、別の場所に移して臨時的に公開するなど、検討してほしい。

○渡部委員

- ・皇室行事については植樹がメインだと思うが、その場所は東部エリアの沿岸と考えてよろしいか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・植樹場所については、過去に実施したフェアにおいてはメイン会場が選定されるケースが多いようだが、今後、宮内庁との協議により決めることになる。

○渡部委員

- ・東部エリアではパネルの展示などで震災前後の様子をしっかりと見ていただくことができる。私は、東部エリアだけではなく、まちなかの変化も大事だと思っており、戦後に植樹した街路樹が立派になった様子など、仙台にいらっしゃった方が、過去のことを見て、これからのことを考えるような展示をしていただきたい。
- ・国際センター駅は会場間を繋ぐという意味で非常に大事な場所であると思う。目的があってフェア会場に来る人もいれば、ふらっと見て回る人もいてほしいと思うので、誘導サインやサインインフォメーションなどをうまく計画してほしい。また、会場間と繋ぐだけではなく、まちなかにも誘導できるようなものが望ましい。
- ・フェアは主催者側だけではなく、会場周辺の事業者も参加したいというニーズがあると思う。そういった情報は吸い上げて共有し、プロモーションしていくことにより、会場だけではなく街全体が行事として盛り上がるのではないかと考えている。
- ・環境に配慮するということで、イベントが終わった後になるべくゴミが出ないことも大切だと思う。場合によって、たとえば仮設物を解体して来場者に配るというのも、プロモーションと掛け合わせてできたら面白いのではないかと思う。
- ・フェア期間中には天候の悪い日もあると思うので、逆手にとって雨の日だから楽しい企画などもあれば期間中楽しめるのではないか。

○涌井座長

- ・委員から貴重な意見をいただいたが、今日は基本計画の物理的な空間の計画について議論し、次回の検討会で運営の議論が出てくると思う。その運営のあたりに大いに参考になるご意見を頂戴した。運営の議論は、また集中して行わなければならないので、次回に向けそのような整理がされてくると思う。事務局の認識に相違はないか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・相違ない。今回は、観光や広報といったことについて議論いただく会としたいと考えている。

○涌井座長

- ・愛称について、意見集約をさせていただきたい。先ほどからご意見を承っていると、3案の中で、事務局が案①「未来の杜せんだい2023～Feel green!～」が一押しだということに異議はないように感じているが、よろしいか。
(委員異議なし)
愛称に“Feel green”をつけることについてはいかがか。

○渡部委員

- ・なくても良いかと思ったが、インバウンドを考えると付けて良いと思う。

○涌井座長

- ・愛称について事務局の案①で進めてもらうということによろしいか。
(委員異議なし)
- ・案①とすることにする。
- ・愛称のコンセプトを、市民の皆さんに理解していただけるような短い文章をご用意いただいた方がよろしいのではないかと思うので、その点ご留意いただきたい。
以上で審議事項はすべて終わりとする。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

— 一次回検討会についての事務連絡 —

6 : 開会

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

— 閉会 —